



保護者連絡用QRコード(登録サイト)

ほうがうら 「母ヶ浦の由来」

校長 内山 茂



9月23日(水)、母ヶ浦天満宮の秋の例祭があり、今年も招待を受けて参加した。会場には総代さんを始め、氏子の方々が多数出席されており、各自持ち寄りの郷土料理に舌鼓を打ちつつ、いろいろな話を聞くことができた。

その中で、町内会長の豊里さんが、「母ヶ浦」という地名の由来についての資料があることを教えてくださり、翌日、学校まで持参してくださいました。読んでみると、2つの由来が考えられるようだ。

- 昔は、海が入り込んでいて、女性や子供たちが潮干狩りをしていた。
- 地域に海の女神様(今の母前神社(ほうぜんじんじや)の祭神)がいて、人々の生活を見守っていた。

このことから、「母」というのは、海の恵みをもらいにやってくる子連れの女性たちと、それを見守る女神様がいたことから付けられたのではないかとと思われる。「浦」は、海の入江があったことを示している。母の愛を感じる、豊かで優しい地名だ。

昨年10月の『S Jだより』に「母ヶ浦天満宮」のことを書き、本校が天神様(菅原道真公)に守られ、地域の人々に支えられていることを皆さんに伝えたが、今年は、さらにその思いを深めた次第だ。

母ヶ浦の方々は、本校生が部活動等で頑張り、元気にあいさつする姿等を温かく見守ってくださっている。改めて、地域あつての「佐実」であると実感した。ありがたいことである。

「創立者を偲ぶ会」を開催

9月4日(金)、故 田中 嵩先生に思いを寄せた「創立者を偲ぶ会」が執り行われました。

今年は、本校同窓会長の井手義則様(第1回卒業生)から、田中 嵩先生との出会いや思い出など、様々なお話を聞くことができました。

毎朝朗読している「心規四則」についても、常に心の中で唱え実践することで真面目な社会人となるという田中 嵩先生の佐実生への熱い思いが込められています。

「創立者を偲ぶ会」は、その思いを再確認する一日になりました。



翔励会会長
井手 義則様

平成27年度「就職試験」開始 - 育友会会長も激励!

9月16日(水)から、いよいよ3年生の就職試験が開始されました。今年は全国的にも高校生の求人数が増え、本校でも昨年度より約100社増の500社を超える企業から求人をしていただいております。今年度は、都市部での求人が増えているのが特徴です。

さて、本校では学校紹介による就職希望者が85名で、今年は県外希望者がやや多い状況です。就職試験に先立ち、9月9日(水)には進路激励会を行いました。校長先生をはじめ、育友会会長、在校生代表の生徒から激励の言葉をいただきました。それに対し生徒会長の伊藤君が、力強い決意の言葉を述べました。「進路は自分ごと」です。しっかりした自覚と決意を持って試験に臨み、必ず合格を勝ち取って欲しいと思います。

進学者も含め「チーム佐実」で頑張ろう。



育友会会長 中脇 正則様



進路指導支援に対し、自衛隊から感謝状が贈呈される!

9月15日(火)、陸上自衛隊西部方面総監より本校に対し、自衛官募集等の協力に対し感謝状及び記念の楯の贈呈がありました。当日は自衛隊長崎地方協力本部本部長 矢藤 久雄 一等海佐他、4名の方が来校され、校長室において感謝状贈呈式が行われました。矢藤本部長からは、長年に亘る本校の協力、支援体制についてのお礼の言葉をいただきました。内山校長からは、感謝状贈呈に対するお礼と共に自衛隊活動への労い、また、本校卒業生の育成に対し感謝の言葉が述べられました。

姉妹校「釜山電子工業高等学校」からホームステイ

9月6日(日)~9月11日(金)まで5泊6日の日程で、姉妹校である釜山電子工業高等学校から生徒8名、先生1名の計9名がホームステイのために本校を訪れました。

その内の3日間を本校生徒の家庭でお世話になりました。各家庭では、言葉は理解できなくても、身振り手振りで気持ちが通じ、短期間ではありましたがお互い貴重な体験ができました。また、学校では、書道や英語の授業を本校生徒と一緒に受け、お互いに教えあい、有意義な時間を過ごすことができました。

御協力をいただきました御家庭には、大変お世話になりました。衷心よりお礼申し上げます。釜山電子工業高等学校の生徒達が「日本のお父さん、お母さんの優しさは一生忘れません。いつか恩返ししたい」と日本語で語ってくれた言葉が印象的でした。

